平成 29 年度　第 4 回政策討論会第一分科会要点記録

日　時　　平成 29 年 10 月 13 日（金）　13 時 00 分～13 時 45 分
場　所　　第一委員会室
出席者　　岡林　憲二（座長）
今口　千代子（副座長）
金子　拓矢
南　　加代子
井上　博
米田　貴志
井上　源次
稲田　悦治

討論テーマ「各地区市民センターの運営について」
〇図書貸し出し数に対する職員の割合が各館ごとにばらつきがあるので、職員負担を考えると平準化するべきではないだろうか。また、蔵書数の充実も大切ではあるが、そこで借りてそこで読めることについてより快適な環境づくりがこれからは大切だと思います。
〇図書館機能についての発言と言うことだが、図書館利用者数と図書貸出数が同じなのが気になる。
図書館には本を借りに来る人だけでなく、学生などが自習学習の為に利用しているケースも多く見受けられる。またそれ以外の利用者も多くいると思う。
それらの方々の利用状況を把握（アンケートなどの実施により）して、新たなサービス（例――資料のコピーが出来るよう、コピー機を自身で自由に使えるようにする等々）に対応できるようにして、図書館の利用者数を単に図書の貸出を中心とするだけでなく、それ以外の利用方法を作り出すことにより、もっと多くの市民に利用してもらうようにすべきではないか。
〇春木市民センター内の図書館の様子で言えば、駅近ということもあってとても利用者が多い。
夜間でも返却できるポストを作るなど工夫されている。貸し出しだけでなく、他の催しも活発に行われているとのことです。
図書については、利用者の感覚がいろいろあって専門書が少ないとか、新書が少ないと感じる人がいる。図書館としては、すぐに取り寄せるなど努力されていると思う。今のところ新しい課題を提案できないが、各館を視察するなど学習したい。
〇年間 110 万冊の貸し出し。岸和田市の人口に置き換えると、一人当たり 5 冊借りていることになる。この数字で考えた時、活発に借りられていると判断していいものなのか基準を知りえないので戸惑うところである。図書館と言えば、本館のハードの部分の整備が気になるところである。障がい者の方々が 2 階へ上がりづらい。お手洗いも使いづらい等など、老朽化の改善も含めてそちらが気になってしまう。また、電子書籍についての今

後の取り組みが気になっているところです。
岸和田出身の方、在住の方が発刊されている書籍は集めていると伺った事がある。それも一つの特色になるのではないかと考える。また、6 館構想で鑑みた時、その地域にある伝統や文化を振り分けてアピールする事も特色のアピールになるのではないか。
本館では「地域再発見コーナー」として取り組んでいるが、それを、それぞれの分館がある地域の「〇〇地域の再発見コーナー」として取り組んでいる事もよいのではないかと考える。
〇登録者数を見てみると、若干少ないのではないかと思います。この数の中にも小学生も入っている。そう考えると多額の費用をかけているにもかかわらず、少ないと考えるのでこの人数を増やすべきである。
〇使いやすい図書館を考える上で、インターネットでの予約や問い合わせが、もっと利用しやすくする必要があると思います。
図書の販売などをしている武雄市の図書館とまではいかなくても、飲食のできるスペースなどは、今後考えていく必要があると思います。
〇図書館利用サービスの状況また自動車文庫利用など、平成２３年度をピークに年間 114 万冊の貸出し、冊数は 5 年間大きく減ることはなく推移されている。各分館においてもバランスよく貸出しされている。一方では市民センター図書館行事、催しについても活発であり、図書館を拠点に学習活動するグループ事業も盛んに行われている。本館、分館としての役割機能が一定果されているのではないか、他市の民間委託した運営なども参考にするなど、利用者の意見を再度考慮することが必要ではないだろうか。
登録者数 6 万人、市民 1 人当たりの貸出し数 5．65 冊は妥当か、図書内容についても一度見直すことも視野に入れるべきです。